



リレーエッセイ

ハードルを越えて

39

志布志市社会福祉協議会

新地 亮平さん (志布志市)

現在、志布志市社会福祉協議会に勤めており、総務課での仕事を日々行っています。私は高校3年生の時、交通事故で車椅子生活となりました。車椅子の私を受け入れていただいた社協の皆様には大変感謝しています。

事故当初を振り返ると「車椅子では何もできない」と思い込んでいました。やはり事故前に出来ていた簡単なことが出来なくなりましたからね。そんな時、車椅子の先輩方が病院のリハビリで真剣に車椅子陸上の練習に取り組んでいるのを見て、車椅子陸上に興味を持ちました。実際に大分国際車いすマラソンを現地で観戦した時には感動しました。プロの走りは圧巻で「自分もあんなふうになりたい」と思いました。そこで何事も自分次第だと気付けたんです。出来る出来ないは置いておいて、自分で挑戦して一步を踏み出さないと何も始まりませんからね。やって駄目なら仕方ないでしょうが、「やらないで何も生まれないよりはマシだ！」と。最初から出来ることは何もありませんから、「何事もマイペースで自分らしく！」そう思い今も競技に励んでいます。

2019年に初めて全国障害者スポーツ大会の県代表に選出されましたが、台風や新型コロナウイルスの影響でまだ一度も大会に参加出来ていません。現在の目標として大分国際車いすマラソン大会のハーフマラソンの部で、1時間の壁を破ることを目指しています。また、2023年開催予定の全国障害者スポーツ大会は地元鹿児島で開催となりますので自分の頑張りを表現できる最高の舞台だと思っています。精一杯準備し、本番に挑みたいですね。いつも支えてくれている家族をはじめ、友人や仕事仲間にも見てもらえたら嬉しいです。

最近では東京パラリンピックがきっかけで、パラスポーツに興味を持っていただく機会が増えたと感じています。いつもの車椅子と競技用車椅子では全く見る景色が変わります。少しでも興味をもっただけなら、障害のある人もない人も体験会などに参加していただき、日常と違った風景を見て感じ取っていただきたいです。



この日は競技用車いす体験教室の講師をされていた新地さん。普段は大隅アスリートトレーニングセンターなどで練習をしているそうです。



通常の車椅子と比べると競技用車椅子は長さが長く、出せるスピードが違います。軽量化されており、片手で持つこともできます。



特定非営利活動法人 障害児フォーラムかごしま

生活支援センター

生活支援センター



えがお

谷山中央

えがおII

桜ヶ丘

〒891-0141 鹿児島市谷山中央8丁目23番15号
TEL・FAX (099) 204-0415

✉ kagoshima_egao@yahoo.co.jp

〒891-0175 鹿児島市桜ヶ丘5丁目16番地9
TEL・FAX (099) 265-8805

✉ kagoshima_egao2@yahoo.co.jp

重症心身障がい児施設

生活支援センターえがお

検索



広告

